

第2回奈良のシカ保護管理計画検討委員会 議事要旨

日 時：平成26年4月24日（木）10:00～12:00

場 所：奈良県新公会堂 会議室3・4

出席者：【委員】（五十音順・敬称略）

委員長 村上 興正	元京都大学理学研究科 講師
委 員 朝廣 佳子	鹿サポートーズクラブ 会長
小西 凉治	一般財団法人奈良の鹿愛護会 事務局長
立澤 史郎	北海道大学大学院 助教
鳥居 春己	奈良教育大学 特任教授
松井 淳	奈良教育大学 教授
渡邊 伸一	奈良教育大学 教授

【オブザーバー】（五十音順・敬称略）

江戸 謙頤	文化庁文化財部記念物課 文化財調査官
花山院 弘匡	春日大社 宮司
高柳 敦	京都大学 講師

【奈良県関係課】

教育委員会事務局文化財保存課、農林部農業水産振興課
農林部森林整備課、奈良公園事務所

【奈良市関係課】

観光経済部農林課、教育委員会事務局教育総務部文化財課

【関係団体】

奈良公園のシカ相談室
鹿害阻止農家組合

【事務局】

奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局奈良公園室
奈良市観光経済部観光振興課

- 議 事 議事（1）保護管理計画策定のスケジュールについて
議事（2）奈良のシカの実態把握（追加分）について
議事（3）緊急を要する課題への対策について

■議事概要

議事（1）保護管理計画策定のスケジュールについて

◆資料1について事務局より説明

○ゾーニングのスケジュールについて

- ・ ゾーニングは、各区域での取り組みを含めての検討が必要。さらなる実態把握を行い、他の取り組みとの整合性を図りながら、ある程度時間をかけて検討する必要がある。
- ・ 奈良公園にかかる各委員会が上手く連携できるようなタイムスケジュールにすることが重要。例えば、シカの餌となる植物の種類・量等に関わる奈良公園の植栽のゾーニングは、シカのゾーニングとリンクさせる必要がある。
- ・ 資料1の策定スケジュールは、これまで出た意見を踏まえた上で、了承したこととする。

議事（2）奈良のシカの実態把握（追加分）について

◆資料2について事務局より説明。

- ・ 3ページの図2「主な現状と課題」A～D地区の「個体数の減少」は誤りで、課題としては「個体数の存続」とするのが正しい。

（1）給餌に関するアンケート結果について

- ・ シカ煎餅も含め、全体の採取量やシバの生産量に対し、人間による給餌が何%を占めるのか実態を把握し、「餌付け」の位置づけを考える必要がある。
- ・ シカの生活史(季節性等)とも関連づけて検討する必要がある。
- ・ シカが雑食性という誤解が50%近くあることは問題。シカが鶏の唐揚げを食べる等の実態が頻繁に目撃されている結果とも言え、課題として検討すべき。
- ・ 不適切な餌によるシカの健康被害もあるため、公園内への食物の持ち込み制限をするべき。給餌の実態を把握した上で、それをコントロールして、シカに与える影響を管理する必要がある。
- ・ 野菜クズの給餌が農作物被害につながっていると考えられる。
- ・ 給餌する場所の把握も必要。人身事故や交通事故に関係する可能性がある。
- ・ 給餌の問題については、今後、さらに検討していくこととしたい。

（2）交通事故について

- ・ 交通事故対策を考えるには原因の解析が必要。
- ・ 交通事故の要因にはシカの移動と人間の配置の2つがある。事故多発交差点は、シカの伝統的な移動ルートの途中にあることがその要因。

（3）人身事故について

- ・ 人身事故対策には、シカへの接し方を考える必要がある。シカ煎餅に関連した事故が多い。シカの人馴れと人身事故の実態について調査が必要。
- ・ 注意喚起看板は、具体的な事故原因を把握した上で、それに対する効果的な表記が必要。
- ・ 鹿サポートーズクラブで奈良公園内のパトロール、観光客等への啓発、注意喚起活動をしているが、奈良公園全てをカバーはしきれない状況。
- ・ 対策には、事故の状況、原因を明らかにすることが重要。

（4）農林業被害について

- ・ 防鹿柵の効果は、鳥避けネットでも有効な場合もあれば、周りに食べ物がなければ2メートルの金網でも侵入されるなど、シカの行動様式と重ねて考えなければ評価しにくい。それを踏まえてどのような柵が効果的かを指導する等の対策をしていけばより効果的な柵設置が可能。
- ・ 今後の進め方として、集落単位での評価の視点を入れた方がよい。集落全体で対策をすると、シカがそこに行く気を無くす効果もある。
- ・ 鹿垣は文化遺産としても面白く、優れた生活の知恵なので、このような発想を対策に取り入れることはあり得る。

議事（3）緊急を要する課題への対策について

◆資料3を事務局から説明。

□農林業被害軽減ワーキンググループについて

- ・ 農林業被害軽減に関する細かい議論をするワーキンググループを設置する。
- ・ 高齢で防鹿柵が設置できない、効果な柵設置ができていない事例があることを踏まえ細かな設置方法を検討することが必要。

□検討対象とする「奈良のシカ」とはどの範囲か。

- ・ 緊急課題への対策を進めつつ、今後、「奈良のシカ」とは何で、どの部分を管理するのかを合意する必要がある。
- ・ 基本的データの蓄積が必要。優先順位を考え、徐々に蓄積していきたい。
- ・ 奈良のシカの生態につき既存の情報をコンパイルすることは検討の方針に関わるので、ゆっくりと取り組んだ方がよい。
- ・ 例えば、奈良のシカが京都府に出て行ったときにどうするのか。今すぐでなくとも、A、B、C、D というゾーニングだけでなく、奈良県と他府県という意味でのゾーニングについても検討する必要がある。

□天然記念物奈良のシカについて

- ・ 天然記念物「奈良のシカ」は、奈良で昔から神鹿とされてきたものを指すことを踏まえ、ゾーニングの検討にあたり、その定義をあらためて議論しておく必要がある。
- ・ 近年新しい知見も蓄積されてきているため、これら新しい情報、既存の情報、地元の意向等も踏まえながら、総合的に検討していくことが必要と考える。

以上